

分野	専門分野	担当者（職種）	内村彰子（専任教員）
授業科目	基礎看護学実習Ⅰ （日常生活の援助）	実務経験	有（医療機関に5年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（45時間）
対象学年・学期	1学年・後期	DPとの関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	目的 看護を必要とする対象の生活環境や看護活動の実際を学ぶ。また、対象の看護の必要性を理解し、対象に応じた日常生活援助技術を学ぶ。		
授業の概要	目標 1 看護の対象である入院患者の生活環境を理解する。 2 看護師の看護活動を理解する。 3 根拠に基づき、対象に応じた日常生活の援助ができる。 4 看護師に必要な基本的態度をとることができる。		
授業計画（回・内容・授業形態）	1. 実習の時期 1月 2. 実習の場所 市立宇和島病院 3. 実習の時間 45時間（5日間と5時間） 4. 実習の展開 ・入院患者とコミュニケーションをはかったり、環境測定を実施したりして、入院患者の生活している環境を知る。また、看護活動の見学や援助の実施を通して、看護師の役割を理解する。 ・入院患者を1名受け持ち、必要な日常生活援助を計画、実施し、評価する。 ※詳細は実習要綱に示す。		
評価方法	1. 授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。		
履修要件	・対象把握の技術、日常生活援助技術演習の単位を修得しておくこと。		
履修上の注意	・日常生活援助を実施するため、既習の看護技術を練習しておくこと。		

分野	専門分野	担当者（職種）	小川貴之（専任教員）
授業科目	基礎看護学実習Ⅱ （問題解決過程の基礎）	実務経験	有（医療機関に5年以上勤務）
		単位数（時間数）	2単位（90時間）
対象学年・学期	2学年・前期	DPとの関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	目的 看護の対象を総合的に理解し、日常生活援助を通して、看護を展開する基礎的能力を養う。		
授業の概要	目標 1 看護の対象を理解するために、ヘンダーソンのアセスメントの枠組みを用いてアセスメントができる。 2 対象の看護上の問題を明確にできる。 3 対象に応じた看護計画が立案できる。 4 計画に基づいて実施できる。 5 看護計画を評価できる。 6 看護師に必要な基本的態度を身につける。		
授業計画（回・内容・授業形態）	1. 実習の時期 7月 2. 実習の場所 市立宇和島病院 3. 実習の時間 90時間（病棟実習85時間・学内実習5時間） 4. 実習の展開 入院患者を1名受け持ち、アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価の一連の看護過程を展開する。 ※詳細は実習要綱に示す。		
評価方法	1. 授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。		
履修要件	基礎看護学実習Ⅰ、問題解決過程の単位を修得しておくこと。		
履修上の注意	・学内で学習した看護過程を復習しておくこと。既習の看護技術を練習しておくこと。		

分野		専門分野	担当者（職種）	上野絵未（専任教員）
授業科目		地域在宅看護論実習Ⅰ （地域）	実務経験	有（医療機関に10年以上勤務）
			単位数（時間数）	2単位（90時間）
対象学年・学期		1学年・後期	DPとの関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	目的 地域で療養する人々とその家族および、看護が提供される多様な場を理解するとともに、保健・医療・福祉システムの中で様々なサービスに支えられている療養生活の実際を知る。			
授業の概要	目標 1 地域で療養する人々とその家族の思いやありようを理解する。 2 地域において看護が提供される多様な場を理解する。 3 地域で療養する人々とその家族を支える様々なサービスの実際を知る。 4 地域において看護師に期待される役割を知る。 5 看護師に必要な基本的態度をとることができる。			
授業計画（回・内容・授業形態）	1. 実習の時期 9月～10月 2. 実習の場所 1) ますだクリニック * 2) 和霊町松浦内科 * 3) 宇和島市社会福祉協議会 宇和島介護保険事業所（居宅介護支援事業所） 4) 宇和島市社会福祉協議会 宇和島介護保険事業所（通所介護事業所） 5) 宇和島市社会福祉協議会 宇和島介護保険事業所（訪問介護事業所）** 6) 宇和島市社会福祉協議会 津島介護保険事業所（訪問介護事業所）** 7) 就労支援事業所 ピアさかえ 3. 実習期間 10日間 各施設 2日ずつ 1グループ（4名）でローテーションする。 *については、いずれか1つの施設で実習を行う。 **については、いずれか1つの施設で実習を行う。 4. 実習時間 8:30～16:15（1日9時間） 5. 実習の展開 1) 実習の目的・目標の達成を目指して、各実習施設での様々な場面に参加または観察して、コミュニケーションをはかったり、指導者に質問をするなど行う。 2) 最終日に各自の学びを発表・意見交換を行い、学びを深め共有する。 ※評価は実習要綱に示す。			
評価方法	1. 授業科目の授業時間数4/5以上の出席にて受験資格有。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により終了していること。60点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。			
履修要件	とくになし			
履修上の注意	看護学生として自覚をもち、倫理的な態度で実習に臨むこと。			

分野	専門分野	担当者（職種）	上野絵未（専任教員）
授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ （訪問看護ステーション）	実務経験	有（医療機関に10年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（45時間）
対象学年・学期	3学年・前期	DPとの関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	目的 地域で療養する人々とその家族を理解し、生活の場で多職種と連携・協働しながら看護が実践できる基礎的能力を養う。		
授業の目標	目標 1 訪問看護ステーションの機能と役割を理解する。 2 在宅療養者と家族に対する看護の必要性がわかり、援助が実施できる。 3 訪問看護の実際を知り、生活の場での看護の役割を理解する。 4 保健・医療・福祉システムにおける多職種の連携・協働および継続看護の重要性を理解する。 5 訪問看護師としての看護の姿勢を身につける。		
授業計画	1. 実習の時期 4月～7月 2. 実習の場所 JCHO 宇和島病院附属訪問看護ステーション 指定訪問看護ステーションやすらぎの杜 3. 実習の期間 5日間 4. 実習時間 8:30～16:15（1日9時間） 5. 実習の展開 在宅療養者宅へ同行訪問し、在宅療養者と家族に対する看護の必要性を理解し、援助を実施する。訪問看護の実際を知り、生活の場での看護の役割を理解する。 ※評価は実習要綱に示す。		
評価方法	1. 授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。		
履修要件	基礎看護学実習Ⅱの単位を修得しておくこと。		
履修上の注意	家庭に訪問する時のマナーを守り、プライバシーを遵守した行動をとる。		

分野	専門分野	担当者（職種）	上野絵未（専任教員）
授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅲ （市役所・地域包括支援センター）	実務経験	有（医療機関に 10 年以上勤務）
		単位数（時間数）	1 単位（45 時間）
対象学年・学期	3 学年・前期/後期	DP との関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	目的 地域で生活する人々とその家族を支えるために必要な保健・医療・福祉システムにおける多職種連携・協働の重要性を理解し、地域での看護の役割を学ぶ。		
授業の目標	目標 1 地域で生活する人々の健康上の課題にアプローチするための市役所、地域包括支援センターの機能と役割を理解する。 2 保健活動の実際を知り、地域における看護の役割を理解する。 3 保健・医療・福祉システムにおける多職種の連携・協働および継続看護の重要性を理解する。 4 地域における看護に必要な倫理的態度を身につける。		
授業計画	1. 実習の時期 10 月 2. 実習の場所 宇和島市役所 保険健康課、宇和島市地域包括支援センター 3. 実習期間 宇和島市役所 保険健康課（3 日間）、地域包括支援センター（2 日間） 4. 実習時間 市役所 8:30～16:15（1 日 9 時間） 地域包括支援センター 8:30～16:15（1 日 9 時間） 5. 実習の展開 保健活動に参加し、地域における看護の役割を理解する。 ※評価は実習要綱に示す。		
評価方法	1. 授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。		
履修要件	基礎看護学実習Ⅱの単位を修得しておくこと。		
履修上の注意	参加できる保健活動が限られるため他学生との情報共有を行う。また、地域住民に節度あるマナーで接する。		

分野	専門分野	担当者（職種）	山口智世（専任教員）
授業科目	成人・老年看護学実習Ⅰ（急性期）	実務経験	有（医療機関に15年以上勤務）
		単位数（時間数）	2単位（90時間）
対象学年・学期	3学年・前期・後期	DPとの関連	DP1. 2. 3. 4. 5
授業の目的	周術期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。		
授業の目標	（手術室） 1 手術室の特徴が理解できる。 2 麻酔・手術の進行に沿った生体反応が理解できる。 3 手術室における看護師の役割が理解できる。 （ICU） 1 ICUの特徴が理解できる。 2 集中治療を受ける患者と家族の特徴が理解できる。 3 ICUにおける看護師の役割が理解できる。 （病棟） 1 周術期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 2 対象の手術後に起こりうる問題を予測し、回復を促進するための看護が実践できる。 3 多職種との連携・協働および継続看護の必要性が理解できる。 4 医療職者に求められる態度を身につける。		
授業計画	1. 実習の時期 5月～11月 2. 実習の場所 市立宇和島病院 3. 実習の期間 手術室：9時間（1日間）、ICU：9時間（1日間）、病棟：72時間（8日間） 4. 実習の展開 （手術室）手術室のオリエンテーションを受ける。看護師と共に実際の手術を見学し、手術室看護を理解する。 （ICU）ICUのオリエンテーションを受ける。ICUに入室している患者の処置・検査、実際の看護を見学する。 （病棟）周術期にある入院患者を1名受け持ち、身体・精神・社会的側面から患者を理解する。診断や術式、既往歴をふまえ、患者の術後合併症のリスクをアセスメントし、クリティカルパスに沿って看護を行う。クリティカルパスを用いていない場合は指導者から術後の経過を確認し、患者の回復過程に沿った看護を行う。 ※詳細は実習要綱に示す。		
評価方法	1. 授業科目の授業時間数4/5以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。		
履修要件	基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学実習の単位を修得しておくこと。		
履修上の注意	周術期・手術室・ICUの特徴、患者のニーズ、看護の特徴など事前学習や既習の学習を振り返り、活用する。グループ間での情報や学びの共有を行う。また、指導者から情報提供を求める。自身の健康管理も配慮し、欠席することなく、実習に臨みましょう。		

分野		専門分野	担当者（職種）	大内禎（専任教員）
授業科目		成人・老年看護学実習Ⅱ（回復期）	実務経験	有（医療機関に5年以上勤務）
			単位数（時間数）	2単位（90時間）
対象学年・学期		2・3学年・前期/後期	DPとの関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	回復期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。			
授業の目標	目標1 回復期にある対象の状況に応じた看護が実践できる。 2 多職種との連携・協働および継続看護の必要性が理解できる。 3 医療職者に求められる態度を身につける。			
授業計画	1. 実習の時期 2年次：2月 3年次：4月、5月 2. 実習の場所 JCHO 宇和島病院 3. 実習の期間 90時間（10日間）8:30～16:15 4. 実習の展開 1）回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。情報を分析し回復期にある対象の全体像をとらえ、個別性を踏まえた看護計画を立案し援助する。 2）地域連携室実習を通して、地域連携室の概要および地域で活用できる社会資源について理解する。受け持ち患者の情報から退院支援の必要性や継続看護の必要性などを理解する。 3）症例カンファレンスを実施する。受け持ち患者のケア技術に対する疑問や関りの困難さ、退院後の生活を見据えた看護の必要性、退院後に必要となる資源についてなどをテーマとし症例カンファレンスを行う。 ※詳細は実習要綱に示す。			
評価方法	1. 授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。			
履修要件	基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学実習の単位を修得しておくこと。			
履修上の注意	手術後の急性期からの回復過程の展開に遅れないよう、事前に学習をしておきましょう。また、患者やその家族の価値観、意思など尊重した態度で接しましょう。			

分野		専門分野	担当者（職種）	山口智世（専任教員）
授業科目		成人・老年看護学実習Ⅲ（慢性期・終末期）	実務経験	有（医療機関に15年以上勤務）
			単位数（時間数）	2単位（90時間）
対象学年・学期		3学年・前期・後期	DPとの関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	慢性期・終末期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。			
授業の目標	1 慢性期・終末期にある対象の状況に応じた看護が実践できる。 2 その人らしさを支える看護について考えることができる。 3 他職種との連携・協働および継続看護の必要性が理解できる。 4 医療職者に求められる態度を身につける。			
授業計画	1. 実習の時期 4月～11月 2. 実習の場所 市立宇和島病院 3. 実習の期間 90時間（10日間） 4. 実習の展開 慢性期・終末期にある入院患者を1名受け持ち、アセスメント、看護上の問題の特定、計画、実施、評価の一連の看護過程を展開する ※詳細は実習要綱に示す			
評価方法	1. 授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。			
履修要件	基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学実習の単位を修得しておくこと。			
履修上の注意	慢性期の健康状態の特徴、患者のニーズ、看護援助の特徴など既習の学習を振り返り、活用する。終末期の患者を受け持つ機会が少ないため、学生間で情報共有する。また、指導者へ情報提供を求める			

分野		専門分野	担当者（職種）	大内 禎（専任教員）
授業科目		老年看護学実習 （介護老人保健施設）	実務経験	有（医療機関に15年以上勤務）
			単位数（時間数）	2単位（90時間）
対象学年・学期		2学年・後期	DPとの関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	目的 老年期にある対象の特徴を理解し、生活機能の観点から看護が実践できる能力を養う。			
授業の概要	目標 1 加齢及び健康障害による機能低下のある対象に応じた看護を実践することができる。 2 療養の場で暮らす高齢者と関わり、QOLを高める援助ができる。 3 介護老人保健施設の役割を理解できる。 4 老年看護に求められる態度を身につける。			
授業計画（回・内容・授業形態）	1. 実習の時期 11月 2. 実習の場所 介護老人保健施設：オレンジ荘、ふれあい荘、JCHO 宇和島病院附属介護老人保健施設、やすらぎの杜 3. 実習の期間 90時間（10日間）8：30～16：15 4. 実習の展開 1）施設の利用者を受け持ち、看護過程を展開する。情報を分析し老年期にある対象の全体像をとらえ、個別性を踏まえた看護計画を立案し援助する。 2）オリエンテーションなどを通して、介護保健施設の概要や施設でのサービス、看護師以外の多職種などの役割についても理解する。 3）高齢者とのかかわる中で、高齢者の権利擁護について考える機会とする。 ※詳細は実習要綱に示す。			
評価方法	※授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。			
履修要件	基礎看護学実習Ⅱの単位を修得しておくこと。			
履修上の注意	受け持ち以外の利用者とも積極的にコミュニケーションをとりましょう。高齢者との対話を通して、生活歴やこれまでの背景、生きがいなどを共感的態度で聞き、老年看護について考える機会としましょう。			

分野	専門分野	担当者（職種）	中野知子（専任教員）
授業科目	小児看護学実習	実務経験	有（医療機関に5年以上勤務）
		単位数（時間数）	2単位（90時間）
対象学年・学期	2学年・後期 3学年・前期/後期	DPとの関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	目的 小児各期の発達段階の特徴を踏まえ、健康障害をもつ子どもと家族を対象に看護が実践できる基礎的能力を養う。		
授業の目標	1 健康障害をもつ子どもとその家族の特徴を理解し、必要な援助ができる。 2 NICU・小児科外来における子どもと家族の特徴を知り、それぞれの場での看護の役割が理解できる。 3 小児看護の役割について考え、多職種との連携の必要性について考える。 4 小児看護の役割を踏まえ、倫理的な態度で子どもと接することができる。		
授業計画（回・内容・授業形態）	1. 実習の時期 2年次3月 3年次4月～10月 2. 実習の場所 病棟：市立宇和島病院 3. 実習の期間 90時間（10日） 4. 実習の展開 入院患者を1名受け持ち、全体像を把握し、必要な援助を考えて実施する。また、入院している子どもにとっての遊びについて考える機会とする。 子どもとその家族を取り巻く医療従事者とその連携の必要性について把握する。 病棟、NICU、小児科外来での実習を通して小児看護の役割について考え倫理的な態度で子どもと接することができるように行動する。 ※詳細は実習要綱に示す。		
評価方法	1. 授業科目の授業時間数4/5以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。		
履修要件	小児看護援助論演習、基礎看護学実習Ⅱの単位を修得しておくこと。		
履修上の注意	各発達段階について、保育体験学習や事前学習を踏まえて子どもと積極的に関わってください。また、受け持ちの児だけでなく、メンバーの受け持っている患者の疾患についてももしっかり学習し、学びを深めてください。 自己の健康管理に気を付け、実習を休まないようにしてください。		

分野		専門分野	担当者（職種）	薬師神真季（専任教員）
授業科目		母性看護学実習	実務経験	
			単位数（時間数）	2 単位（90 時間）
対象学年・学期		2 学年・後期 3 学年・前期/後期	DP との関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	母性看護の特性を理解し、妊娠・分娩・産褥および新生児期にある母子とその家族に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。			
授業の目標	1 妊娠・分娩・産褥期の正常な経過と早期新生児の生理的変化を理解できる。 2 妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期にある母子とその家族に応じた援助ができる。 3 母性看護の対象を取り巻く社会の現状を知り、対象への切れ目ない支援の重要性について理解できる。 4 生命の尊さや親性（母性・父性）・家族について考えを深め、母性看護に求められる態度を身につける。			
授業計画	1. 実習の時期 2 年次 2 月 3 年次 4 月～11 月 2. 実習の場所 市立宇和島病院 3. 実習の時間 90 時間（10 日間） 4. 実習の展開 実習 1 日目・2 日目は学内実習として、直前オリエンテーション・技術演習を行う。 病院実習では、妊婦・産婦・褥婦・新生児と関わり、妊娠・分娩・産褥期の正常な経過と早期新生児の生理的変化について、事前学習を活用しながらアセスメントし、援助を行う。また、妊娠期・新生児のケアに必要な基本的な看護技術について見学または実施する。 産婦人科外来にて、妊婦健診・産後健診・助産師指導の実際を見学し、健診の内容や実際を知るとともに、外来看護師の役割、継続看護の重要性を理解する。 分娩見学や妊産褥婦および新生児の看護を通して、生命の尊さについて考える。 婦人科疾患患者の術前・術後の援助を見学・実施し、必要な看護を学ぶ。 ※詳細は実習要綱に示す。			
評価方法	1. 授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。			
履修要件	基礎看護学実習Ⅱの単位を修得しておくこと。			
履修上の注意	対象の羞恥心・プライバシーを配慮した行動をとりましょう。 グループ間での情報共有、学びの共有をしっかりと行いましょう。			

分野	専門分野	担当者（職種）	水口 英和（専任教員）
授業科目	精神看護学実習	実務経験	有（医療機関に 10 年以上勤務）
		単位数（時間数）	2 単位（90 時間）
対象学年・学期	2 学年・後期 3 学年・前期/後期	DP との関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	<精神看護学実習> 精神障害をもつ対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。		
授業の目標	1 対象の状態に応じた援助的なコミュニケーションを図ることができる。 2 精神障害をもつ対象のセルフケア能力に応じた看護を実践することができる。 3 精神障害者の地域生活での課題と必要な支援が理解できる。 4 精神科看護における倫理観や人権を尊重した態度を身につける。		
授業計画	1. 実習の時期 2 年次 2 月 3 年次 4 月～11 月 2. 実習の場所 正光会宇和島病院 3. 実習の時間 90 時間（10 日） 4. 実習の展開 精神障害を持つ入院患者を 1 名受け持ち、アセスメント、看護上の問題の特定、計画、実施、評価の一連の看護過程を展開する。また、社会復帰部門での実習を通し、精神障害者が地域生活を送るうえでの課題や、地域生活を支えるために必要な看護を考える。 ※詳細は実習要綱に示す。		
評価方法	1. 授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。		
履修要件	基礎看護学実習Ⅱの単位を修得しておくこと。		
履修上の注意	精神障害を持つ患者の心身の健康状態の特徴、患者のニーズ、看護援助の特徴など既習の学習を振り返り、活用する。また患者の状態に応じた援助が提供できるように、事前に学生間で情報共有する。また、指導者へ情報提供を求める。		

分野		統合分野	担当者（職種）	水口英和（専任教員）
授業科目		統合実習	実務経験	有（医療機関に 10 年以上勤務）
			単位数（時間数）	2 単位（90 時間）
対象学年・学期		3 学年・後期	DP との関連	DP1.2.3.4.5
授業の目的	既習の知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員として看護が実践できる能力を養う。			
授業の目標	1 看護チームにおけるリーダー・メンバーの役割と責任が理解できる。 2 複数患者を受け持ち、優先順位と時間管理を考慮しながら看護チームの一員として看護が実践できる。 3 就寝前の患者の状況を知ることにより、患者を総合的に理解できる。 4 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割が理解できる。 5 自己の目指す看護師像を明確にできる。			
授業計画（回・内容・授業形態）	1. 実習の時期 12月 2. 実習の場所 市立宇和島病院 正光会宇和島病院 3. 実習の時間 90時間（10日間） 4. 実習の展開 ①複数患者を受け持つ看護師の業務の見学実習 ②複数患者を受け持つ実習 ③夜間実習 ④リーダー業務見学実習 ⑤看護管理見学実習 ①～⑤の実習を行う。②では、2名の患者を受け持ち、看護過程を展開する。看護計画に基づき優先順位や時間配分、チーム協力を考え、援助を行う。カンファレンスは実習中2回（「私の目指す看護師像」「火災発生時の行動」）実施する。 ※詳細は実習要綱に示す。			
評価方法	1. 授業科目の授業時間数 4/5 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。 2. 実習評価は、評価表に基づいた教員評価とする。			
履修要件	地域・在宅看護論実習Ⅱ・Ⅲ、成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習の単位を修得しておくこと。			
履修上の注意				